

[ 平成23年 3月 4日総務財政委員会-03月04日-01号 ]

◆芝田 委員 皆さん、おはようございます。公明党の芝田でございます。池尻委員が言っておられましたけども、7年間待って、8年目にこの委員会に入れていただいたんですけど、きょうのまだ質疑はあるんですけども、やはりもっと勉強せなあかんかと、自分自身、反省もしながら、また皆さん方とより高いレベルで議論を今後もしたいなという思いが今あります。

本日は、議案第27号堺市マスタープラン基本計画について御質問いたします。

竹山市長になりまして、本格的な予算が、この平成23年度予算が組み込まれたところでもありますけども、この次の10年間の堺市の未来像、また、あるべき姿、そしてまた堺の将来像がきっちり書かれているのが、このマスタープラン基本計画というふうに認識をしておりますけれども、それでは、今回のマスタープランの策定の流れについて、ちょっと簡単にお示ししたいと思えます。

◎大黒 政策企画担当課長 今年度取り組んでまいりましたマスタープラン策定の経過でございますけども、さまざまな機会を得まして、市議会の皆様方初め市民の皆様方から御意見をちょうだいいたしました。

具体的に申し上げますと、本会議での御議論、委員会での御議論を初めまして、8月議会前にはプランの骨子案、12月議会前には基本計画案、本議会前にはプラン全体案ということで、それぞれお示しさせていただきました。会派ごとの説明会も開催させていただきました。そして、これまでいただきましたすべての意見につきまして、庁内で議論を尽くしまして、精査の上、適宜修正等を行ってまいったところでございます。さらに、今年度当初の4月に行いましたまちづくりワークショップでありますとか、12月に行いました市民フォーラム、市内7カ所で行わせていただきました。あわせまして、パブリックコメント、有識者等による懇話会などの御意見、多数いただきました。

今回お示しましたマスタープラン案につきましては、こうした御意見を十分に踏まえたものでありまして、議会を初め、市民の皆様方の御意見をいただきまして、ともに作り上げてきたものであると我々認識いたしてございます。以上でございます。

◆芝田 委員 今議会前に、この全体案が出たということで、こういう冊子もいただいております。さかのぼって12月には、基本計画案ということで、その前にはプランの骨子案が8月の議会前ということで、だんだん膨らんでいくわけですけども、このマスタープランが膨らんで、ボリュームがふえていく中で、私なんかの認識では、わかりづらくなってくると。いわゆる最初の段階では骨子ですから要点がはっきりして、堺市が何をめざしているのか、まちづくりをどうしようかということがわかるんですけども、この12月の議会前のプランの基本計画案からどうなにかと、何を言いたいのかと、また戦略は何かと、また今議会前に出されたこの冊子には、そういうことが余計疑問がわいてくる

ように感じるわけですが、この2月の議会でも、我が会派からも、高齢福祉の観点が見落しているんじゃないかとか、また堺市の顔である、玄関である堺東の駅前の活性化についても、明確なビジョンがないというような指摘もさせていただいたわけですが、他会派からもいろいろ種々意見、議論があったと思うんですが、その辺を踏まえて、当局はどのように認識され、どれを今回のマスタープラン案に反映させていくおつもりか、お聞かせ願いたいと思います。

◎大黒 政策企画担当課長 種々さまざまな御意見いただいております。8月議会には骨子案をお示しさせていただきました、12月議会には基本計画案と。当初8月議会では骨子の段階でございましたので、プランの構成等わかりにくいということで、御意見等賜りました。12月議会では基本計画の公表をさせていただきました、市内7カ所でのフォーラム等での御意見も賜った中で、ちょっと一部紹介させていただきますと、課題などの優先順位をつけてわかりやすく示してほしいでありますとか、理想で終わらないためにわかりやすいプランを示していただきたいというような御意見がございました。我々、わかりやすい意見、わかりやすいプランということで、種々努めてまいりましたので、現在お示しさせていただいておりますプランにつきましては、実施計画等も含めまして、流れの中でわかりやすく御理解いただけるものと認識いたしております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、このマスタープラン基本計画が時系列の逆からの、時系列でいけばですね、竹山市長が誕生してマニフェストですね、60のマニフェストを出されて、その後堺活力再生プロジェクトという、そういう案が出され、そしてまた、この10年後のマスタープランという、こういう流れが逆にあるかなというふうに思うわけですが、市長のマニフェストが、どこまでこのマスタープランに反映されているか、そしてまた、堺の活力再生プロジェクトの関連について、見解をお示しいただきたいと思います。

◎大黒 政策企画担当課長 市長のマニフェストの反映でございますが、先日の大綱質疑でも財政局長から御答弁申し上げましたマスタープラン案の策定に関しましては、昨年出させていただきました活力再生プロジェクトを議論のたたき台として作成させていただいております。庁内での議論を尽くしまして、市長公約であるマニフェストにつきまます関連事業の主なものにつきましては、十分に踏まえた内容となっております。ただし、同プラン案の取りまとめに際しましては、市長の市政運営の方向性を基本としておりますけれども、議会の皆様の御意見、市民の皆様あるいは有識者等の御意見を賜りまして、幅広い御意見の中で作り上げてきたものと認識してございます。以上でございます。

◆芝田 委員 今回、仮称でさかい未来・夢コンパスと、自由と創造の海をめざしてということで、このコンパスというのは羅針盤ですかね。この案の最初のほうは、いわゆる2章、3章は時代認識、そしてまた堺市における状況ということで、いろいろグラフ等も盛り込んでいただいて、ボリュームがかなりあると。今さらという部分もあるんですが、そのように少子高齢社会の中で、また、一寸先はやみだという例えがあるように、3年後、5年後、10年後というのは、我々の住んでいるまちが、また大きくいえば日本

がどういふふうにいふかというのが、有識者にとつてもなかなか的を射た答へが述べられない。まさに、それだけグローバルが進み、そしてまた、大きな問題を世界じゅうがいろいろ、内乱等も含んでいろいろなことがあるなというふうに認識をしておるわけですけども、特に少子高齢という中で、義務的経費がますますふえて、また市税等が減る中で、本市におきましては、長年の懸案でありました臨海部に企業誘致を成功しまして、そういう法人市民税の増でプラスの事業もできるというふうになって、我々の要望したことも1つ、2つ実つて、大変うれしくは思ふわけですけども。

この先、それではどうなのかということになれば、なかなかやはり、こういう羅針盤が、また戦略的なものがなければ、どの自治体も都市間競争でいわゆる競争に勝つという論理が働く中で、大変厳しい状況で、こういう状況をかながみて進めていかなければいけないわけですけども、それでは、財政課のほうにお聞きいたしますけれども、10年後の、10年間の本市の財政の状況を、この間も表をいただきましたけれども、それについて御見解をいただきたいと思ひます。

◎奈良 財政課長 今回お示しをいたしました中長期の財政収支見込みの件でございますけれども、まず、かなり私どもは歳入、歳出ともに適切に見込んでいるというふうに感じております。例えば、今般、内閣府が平成23年1月に示しました経済財政の中長期試算というものでは、その中の慎重な前提の試算でさえも、平成23年度から平成27年度まで1.0から1.5%の経済成長を見込んでいるというところでございますが、本市の試算に際しましては、先ほど委員もおっしゃいましたように、将来の見通しが不透明というようなこともありますので、歳入につきましては、平成24年度の以降の経済成長を見込まず、予定されている制度改正等を反映し、推計をしたものになっております。一方、歳出については、扶助費は伸びるところもございまして、過去の実績、あるいは高齢化等を考慮し推計したものとなってございます。以上でございます。

◆芝田 委員 基金も減り、そしてまた市債がふえる中で、やはり行政、国、また自治体が今まで甘い見込みをして、そのつけは市民、国民が見たわけですね。年金の問題がわかりやすいことかなというふうに思ふわけですけども、本当にこの見込みで、マスタープランが財源の裏づけとなる財政課の出された財政スキーム10年間で、本当に見通しが甘くないと言い切れるかどうか、御答弁いただきたいと思ひます。

◎奈良 財政課長 見通しが甘くないかというようなことでございますが、この中長期見込みの中では、マスタープランの事業費も見込んでおりますし、先ほど申しましたように、歳入についてもかなり慎重に見込んでいるところでございます。ですから、今回作成いたしました中長期の財政収支見込みについては、本市の実態を的確にとらえた見込みであるというふうに考えております。以上です。

◆芝田 委員 ぜひ、その場その場でまた修正もして、ちゃんとこのマスタープランが遂行できるように、下支えをしていただきたいなというふうに思ひます。ただ減る分は、やはり行革で生み出さないと成り立たないという構図が、ここずっと続いておりますし、

この10年後もちろんそうであります。この間の新聞等でも、いわゆる230億円の財政収支を改善すると、いわゆるそれをしないと、マスタープランが遂行できないという構図になっているわけでありまして、この230億円というのは、柱が人件費ということになっております。前回の常任委員会でも市長のマニフェストの職員の10年後の2割削減の中に、再任用短時間勤務職員も入れていただいたりということでありまして、実際この辺が、実際人件費の見込みも大丈夫かどうか、この辺もちょっと再度確認していきたいと思っております。

◎奈良 財政課長 お示しました中長期の財政収支見込みにおけます人件費の見込みでございますけれども、まず、平成23年度には約544億円というような予算を計上しているところでございますが、平成31年度までに正規職員が平成21年度と比べまして、2割削減ということになることを前提としまして、一般会計の今回の推計をしております。その結果、32年度には約466億円になるものと見込んでおります。以上です。

◆芝田 委員 よろしく願いいたします。また、もとに戻りますけれども、このマスタープランですね、いわゆる構成が悪いとか、またわかりづらいとか、また私なんか、この広報の3月号ですか、これは予算と関連して2ページに書かれておるわけですが、こちらのほうが骨子というか、わかりやすくまとめているから、理解しやすいのかもわかりませんが、このマスタープランは本当に同じような数字も7つとか、いろんな数字が同じように出てきたり、そういったことではなかなか理解しづらいと、また何をしようとしているのかというのは、何か焦点がぼけてしまって、本当に大丈夫なのかというようなことが見受けられます。

先ほど言ったように、大変厳しい経済情勢とか、今後の社会情勢の中で、やはりしっかりした羅針盤、いわゆるそこに戦略も必要になってくるわけですが、それではマスタープランの中で、都市の成長戦略としての未来への投資を行うと、こうありますけれども、具体的にはどのようなことかお聞かせください。

◎大黒 政策企画担当課長 少子化、高齢化、人口減少社会の到来でございますとか、国内産業の成熟化、地域間格差の拡大などによって、自治体経営をめぐる情勢が今後ますます厳しさを増す中で、本市が将来にわたって持続的に発展していくためには、成長の原動力としての資源である人、あるいはまちの魅力、産業などに対して、先行的に投資を積極的に行う必要があるということが重要であると考えてございます。

具体的に申し上げますと、まず、都市活力の源泉となる人を育成するための子育て支援の推進でございますとか、教育環境の充実でございます。次に、人を引きつける都市魅力を創出するために、百舌鳥古墳群を初めとする、歴史・文化資源の活用を進めていくこと、最後に産業基盤の強化を図るために、企業の環境・エネルギーなどの成長分野への進出や、技術開発への支援を行っていくことなどでございます。これらに対しまして、戦略的な観点から、重点的に経営資源を投下することで、人、モノ、情報が集まり、にぎわいと活力が創出される持続可能なまちが実現できると、我々考えてございます。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、堺の未来への投資については、具体的にはどのようなものがありますか。

◎大黒 政策企画担当課長 具体的に事業としましては、23年度予算の中では、製品・技術開発支援でありますとか、子育て充実のための支援等々、計上させていただいてございます。以上でございます。

◆芝田 委員 別に23年度に限ったわけではなく10年間のスパンで見て、堺の未来への投資について説明していただきたいと思います。

◎大黒 政策企画担当課長 10年間の投資でございますけども、先ほども御答弁申し上げましたように、人、まちの魅力、産業などへの投資ということで、子育て支援、教育環境、この充実、教育環境であれば、マイスタディ事業なども進めさせていただいてございます。都市魅力に関しましては、百舌鳥古墳群を初めとする歴史・文化資源の活用でございます。産業への投資ということであれば、環境と産業が融合した形の省エネ対策の支援でありますとか、エネルギーの成長分野への投資等々でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 同じことを未来への投資を行うと、堺の未来への投資を行うということで理解してよろしいんですか。

◎大黒 政策企画担当課長 10年間の投資でございます、人、モノ、お金の投資なんですけども、堺市としましては、人への投資、産業への投資、歴史・文化を生かした堺の魅力への投資ということの投資をさせていただくということで御理解いただければ結構でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 だから、私が後で言った堺の未来への投資というのは、この3つの挑戦、違いますか。この広報さかいの市長の発表ではそうなってますし、またこれは重要だということは、議会でも議論しているわけですけど、未来への投資を行うことと、堺への未来への投資というのが一緒というふうに理解してよろしいんですか。

◎西川 企画部副理事 委員お示しのとおりでございます。マスタープランの中では3つの挑戦、これは市民、企業、団体の方々を含めて、ともに堺のこれからの未来に対して発展していくための3つの大きな挑戦ということで掲げさせていただきます。そこに対して、この大きな項目に対して、未来の堺に対しての先行投資、重点的な投資をしていきたいという考え方でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 このように、ちょっと聞いているほかの理事者の方もわかりにくいし、私も質問しても、言葉がいろいろ人とかモノとか産業とかいろいろ出てきて、もっとその辺を集約していただきたいなというふうに思うわけですね。だから、そこで1つ例を出せば、ちょっとわかりにくいかというふうに私は思います。

この議論はここまでに置きますけれども、また次にですね、やっぱりこのマスタープランを読めばとか、熟読すれば、またこういうことを説明受ければ、堺市の5年後、10年後のまちがイメージできると、また堺はこのようになっているのだという、いわゆる将来像がやっぱりイメージできなければ、本来このマスタープランの冊子等がやはり希薄なも

のになっているんじゃないかというふうに思うわけですが、それではこのマスタープランを推進することで、5年後、10年後に堺市がどのようなまちになるか、お聞かせいただきたいと思います。

◎大黒 政策企画担当課長 プラン案の中でお示ししている内容でございますけども、めざすべき堺の将来像としまして、未来へ向けて挑戦し続け、飛躍していく都市であること、そして人が住む・憩う「安らぐ場」として、訪れる・遊ぶ「楽しむ場」として、働く・学ぶ「活躍する場」として「希まれるまち」であるということが記載されてございます。

具体的には、すべての市民が安全・安心に住み、働き、遊び、学ぶことができ、幸せを実感できるまち、またすべての子どもが健やかに成長しまして、夢の実現に向けた無限の可能性に挑戦しているまち、さらに、すぐれた人材、技術が集積し、新たな価値が創造されるとともに、経済と環境が調和した持続可能な社会が実現しているまち、そして最後に、市民が誇りを感じ、その魅力を全国、世界へと発信されているまち、そのようなまちが10年後の堺の将来の姿としてイメージを掲げてございます。以上でございます。

◆芝田 委員 確かに今の答弁では、このマスタープランの中にありますけども、私はイメージがなかなかできません。また、議論をその前に戦略的なことも、何をねらって、どのように目標を設定して、そのためにどうしていくかということが重点的に取り組むということも、なかなか感じにくかったわけであります。

最後に、部長のほうに、今、最後に答弁いただきましたイメージが、課長のほうで述べていただきましたけれども、本当にそれでイメージが部長もわくのか、またわいているのか、その辺を最後にお聞かせ願いたいと思います。

◎吉田 企画部長 ただいまの御質問でございますけれど、私どもといたしましては、マスタープランの中で市民の皆様と共有できるイメージを御提示させていただいたというふうに認識しております。この後、私どもはそういったまちの姿に向けて、市民の皆様、企業の皆様とともに一生懸命努めてまいりたいと思っておりますので、よろしく御理解のほどお願い申し上げます。以上です。

◆芝田 委員 議論は昼から市長につないでいきますけれども、やはり我々議会でも、また市民からいただいたことも、できるだけくみしていただいて、このマスタープランがより中身のある、また堺市民のためになる基本計画となるように念願をいたしまして、午前中の質問を終わります。ありがとうございました。